

Global Health R&D: Transformative Action & Partnership

GHIT Fund

Global Health Innovative Technology Fund

Report on GHIT Fund Side Event at TICAD IV

ケニア、ナイロビ

2016年8月26日



2016年8月26日(金)、GHIT Fundはケニアのナイロビで行われた第6回目となる第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)の機会に合わせて、サイドイベント(以下、イベント)を開催しました。

TICADは、1993年以降、日本政府が主導し、国連、国連開発計画(UNDP)、アフリカ連合委員会(AUC)及び世界銀行と共同で開催しているアフリカの開発をテーマとする国際会議です。「アフリカのオーナーシップ」と「国際的なパートナーシップ」という開発哲学のもと、TICADは今やアフリカの開発促進に重要な役割を果たしています。さらに日本は、2008年に野口英世アフリカ賞を創設し、アフリカで感染症や他の疾患と闘い、人類全体の保健と福祉の向上に貢献する医学研究・医療活動を行っている研究者を顕彰しています。

GHIT Fund CEOのスリングスピーはイ

ベントの冒頭で、グローバルヘルス分野における日本の貢献を述べアフリカとのパートナーシップに期待を示しました。「日本は治療薬、ワクチン、診断薬などの製品開発を推進する原動力であり、グローバルヘルス分野におけるリーダーです。橋本インシアチブに始まり、グローバルファンド創設のアイデア、そして、直近ではユニバーサルヘルスカバレッジの推進などを鑑みると、日本はグローバルヘルス分野に確かな道筋を示してきました。さらに特筆すべきことは、日本のグローバルヘルス分野におけるこれらの変革は、アフリカとのパートナーシップによって生まれているのです。」

アフリカの専門性と 能力を活かす

本イベントで基調講演を行った塩崎厚生労働大臣は、「アフリカの人々は、アフリカで今何が必要とされているかを、最もよく

理解しています。」と述べ、新薬開発を成功させるには低中所得国の参画が必要であることを強調しました。さらに、「すでにアフリカの研究者たちが、GHIT Fundからの投資を受けて製品開発の活動を行っていることは大変喜ばしいことです。アフリカで行われているプロジェクトは製品開発のプロセスに加えて、アフリカの研究者の能力開発の点でも極めて重要です。アフリカの未来をより輝かしいものにするために、日本は皆様と着実に取り組んでいきたいと心より願っています。」と語り、



塩崎恭久氏(厚生労働大臣)

同日午前中に行われた野口英世アフリカ賞シンポジウムのテーマである人材開発

の重要性に加えて、アフリカの研究者や医療従事者等を製品開発のプロセスに巻き込んでいくことの必要性を指摘しました。

基調講演後、パネルディスカッションが行われ、セネガル共和国保健大臣のアワ・マリ・コールセック氏、ワクチンと予防接種のための世界同盟 (Gavi, the Vaccine Alliance) CEO のセス・パークレー氏、国連開発計画 (UNDP) HIV 保健開発チームリーダーのマンディーブ・ダリワル氏、野口英世アフリカ賞受賞者でもあるブライアン・グリーンウッド氏とアレックス・コウティエニヨ氏が登壇し、スリングスピーがモデレーターを務めました。

パネルディスカッションでは、この度の TICAD VI と野口英世アフリカ賞シンポジウムの主旨に沿って、日本とアフリカの連携拡大の重要性に焦点をあてるとともに、国際社会から高い評価を受ける日本のグローバルヘルス分野での取組みに、製品開発という新たな視点を加えて議論を行いました。また、グローバルヘルス分野における製品開発の成功事例の様々な側面に着目し、製品を人々に届けるために必要となる、アフリカの専門家の参画や制度・環境等についても議論が展開されました。

セネガル共和国保健大臣のコールセック氏は、GHIT Fund の活動にアフリカの研究機関が参画していることを高く称賛しました。近年日本の研究者、研究機関、日本の技術との連携を通じて、アフリカの研究者や研究機関の専門性が積極的に活用されています。コールセック氏は、GHIT Fund が投資するブルキナファソやウガンダでのマラリアワクチンの臨床試験、コート

ジボワールでの住血吸虫症小児用製剤の臨床試験、タンザニアでの結核ワクチンの臨床試験に対する GHIT Fund の支援に対して感謝の意を述べました。「日本の機関とアフリカの機関との連携は必要不可欠なものです。アフリカが必要とする研究を、アフリカの研究者自身が実施できるようになっていくためには、GHIT Fund からの支援が必要なのです。」



コールセック氏 (セネガル共和国保健大臣)

Gavi の CEO、パークレー氏は、過去にエイズワクチン開発に携わった経験を踏まえて、「ケニアの研究者は、HIV ワクチンの臨床試験実施に何度も携わったことで、臨床試験実施に必要な能力を身につけていきました。こうした努力によって、彼らは他のニーズに対しても対応できるようになったのです。」と述べました。



パークレー氏 (Gavi CEO)

医薬品アクセスの重要性

製品開発における科学的専門性と開発能力は極めて重要な要素ですが、一方で製品開発後の適切な価格設定や供給体制が伴わなければ、それらは無意味なものとなります。スリングスピーは、「どんなに良い製品であっても、患者に届かなければ意味がないのです。」と述べ、製品が研究者の手から、医療従事者や患者の手に確実に受け渡されていく必要性を強調しました。

医薬品アクセス (以後、アクセス) は、パートナーシップが最も必要とされる領域です。野口英世アフリカ賞受賞者 (2008 年) で、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院教授のグリーンウッド氏は、「新たな技術を開発する人々は時として、他の領域には専門性を持っていないことがあります。そういった点でパートナーシップは極めて重要です。今後も日本はパートナーシップを通じて製品開発に重点を置くべきです。」と言及しました。



グリーンウッド氏 (ロンドン大学衛生熱帯医学大学院)

新たな製品を上市するためには、科学的な新発見に必要な専門性とは全く異なるツールや資源、言い換えれば、適切な医薬品政策・規制の枠組み、技術を評価・審査する能力、ファーマコビジランス (医薬品安全性監視) などが必要になります。

UNDPのダリワル氏は、製品開発と市場供給の両方に対して投資を行っている日本の先見性を称し、GHIT FundとUNDPのパートナーシップについて、「適切な治療薬、ワクチン、診断薬を、適時に、適正なコストで届けるために、市場供給に備えた土壌づくりを現在行っています。」と述べ、UNDPがタンザニアで行っている医薬品政策・規制の環境整備、導入支援の事例が紹介されました。この活動によって、GHIT Fundが投資する案件が製品化された後、円滑に製品を市場に供給することが可能になります。



ダリワル氏 (UNDP)

製品開発とアクセスの計画は、継続して、相互に強化されていくプロセスです。製品開発はアクセスを考慮にいれなければならない一方で、製品は患者や医療従事者の手に届いて初めて、製品そのものやアクセスを改善していくことができるのです。野口英世アフリカ賞受賞者(2013年)で、Inshuti Mu Buzima(ルワンダ)エグゼクティブ・ディレクター、国際エイズワクチン推進構想(IAVI)理事長を務めるコウティニーニョ氏は、「最初の段階ではとにかく製品が必要とされますが、製品化された後は継続的なアクセスの改善、つまり、数百万の人々に届けるためには何が必要なのかを考え続けなければなりません。」と指摘しました。さらに、UNDPのダリワル氏は、「アクセスについて、臨床試験のPhase IIIやPhase VIの段階まで待つ

ている必要はありません。」と述べ、早期段階からアクセスを考慮に入れた市場供給の計画が重要であることを強調しました。



コウティニーニョ氏 (Inshuti Mu Buzima)

グローバルヘルスR&Dの原動力

製品開発におけるパートナーシップとアクセスに加えて、登壇者はグローバルヘルスR&Dに継続的に増資する根本的な理由について語りました。コールセック氏は、「グローバルヘルスR&Dから生み出される解決策は抽象的な概念などではなく、形があり、具体的で、人々の命を救う製品です。そうした製品は、私の健康にも恩恵をもたらすものですし、私の母国セネガル共和国の保健プログラムを改善するものもあるのです。」と述べ、新たな製品が人々の健康に与えるインパクトについて言及しました。

さらに、登壇者からは、人々がHIV感染の有無を検査キットを用いて自分自身で確認できるようになったことや、マラリアや結核の迅速診断キットによって、医療従事者が早く、正確で、コスト効果の高い治療法を選択できるようになったことなど、製品開発の進化に伴う画期的な事例が紹介されました。

GHIT Fund会長の黒川清は、「パートナーシップを通じた活動は、アフリカの人々

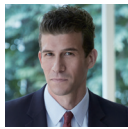
が健康を改善し、より良い保健医療システムを作るために、日本ができる新たなアプローチです。」と述べ、イベントを締めくくりました。

GHIT Fundは製品開発への投資の際、日本の機関と海外の機関がパートナーシップを構築することを必須要件としています。研究者、医療従事者、政府など、異なる立場にいる専門家がそれぞれの専門性や知見を持ち寄ることで、製品開発と市場供給の質が向上し、患者の健康が改善され则认为しているからです。こうしたアプローチを通じて、GHIT Fundは新たな製品開発を支援し、人々の健康改善、アフリカの成長に貢献しています。



黒川清 (GHIT Fund会長)

開会の挨拶



スリングスビー B.T.

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
Chief Executive Officer

基調講演

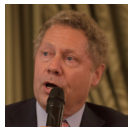


塩崎 恭久 氏

厚生労働大臣

パネルセッション

Panelists



セス・バークレイ 氏

ワクチンと予防接種のための世界同盟
(Gavi, the Vaccine Alliance)
Chief Executive Officer



アワ・マリー・コールセック 氏

セネガル共和国保健大臣



アレックス・コウティニーニョ 氏

Inshuti Mu Buzima エグゼクティブ・ディレクター
国際エイズワクチン推進構想 (IAVI) 理事長



マンディープ・ダリワル 氏

国連開発計画 (UNDP) HIV 保健開発チームリーダー



ブライアン・グリーンウッド 氏

ロンドン大学衛生熱帯医学大学院教授

開会の挨拶



黒川 清

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金会長
政策研究大学院大学客員教授、日本医療政策機構代表理事